

大道芸アジア月報 2019 年 6 月

Vol. 30, no. 6

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

Tel&Fax 03-3388-4348

■大道芸案内

主な大道芸スポット(土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント)

- 大阪・天保山海遊館広場 ■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場
 ■ヨコハマ大道芸 (山下公園、グランモール公園、ジャックモール) <http://daidogeij.jp/> ■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/>
 ■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/ ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
 ■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html> ■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

- 6月9(日) 10:00~16:00 新宿区・子育てメッセ 会場・新宿コズミックセンター2階体育館 入場無料
 ●7月6(土)・7(日) 富士見市民会館キラリ☆ふじみサーカスバザール
 ●7月12(金) 日本の大道芸探訪プロジェクト vol.13 「願人坊主、推参! カボレ カボーレ!!」
 浅草木馬亭 前売り¥2000 (当日¥2500)

★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/> ○千葉ポートシアター (京葉線「千葉みなと」駅下車)

- 1月より連日(火・水は休演) 開演時間は要確認
 ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンス。
 ジャグリングには、森田智博、ボンバンゲー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演
 問合せ・電話 050-5238-3533 (イーストバジョン公演事務局)

△フィンランドサーカス <http://www.littleworld.jp/events/2019spring/index.html> ○犬山市 リトルワールド

- 3月16(土)~6月16(日) ※火曜日休演

△まんぱく 2019 <http://manpaku.jp/> ○国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン

- 5月16(木)~6月3(月)

△舶来寄席 <http://the-hakurai.com/> ○なんばグランド花月

- 5月31(金)~6月23(日)

第一部 吉本新喜劇

第二部 ワールドバラエティアクト (アラ・クリスタ [フラフープ]、ハンス・デイビス [影絵]、マルティネスブラザース [人間風車]、ハイパーフック [ダンス]、デュオ・ヴィタリス [ヘッド・バランス]、タイ・トウジョー [ジャグリング])
 一般¥4700 (学生¥3000)

△かめいど勝運大道芸 <https://www.facebook.com/KachiunStreetperformance/> ○亀戸勝運商店街

- 6月1(土) izuma、アートパフォーマー☆ファイター、Asako、鷹島姫乃、浅草十一寸、旅流草一郎
 ●6月8(土) 雪竹太郎、綾乃テン、めぐみ梨華、鷹島姫乃、灯月いつか×史絃、ひよっとこべえ easy、浅草十一寸、プロムカルテット、フーセンおじさん
 ●6月15(土) プリコロハウス、油井ジョージワンマンバンド、パフォーマーまめ、鷹島姫乃、灯月いつか×史絃、浅草十一寸
 ●6月22(土) Lady n@n @Nina Galaxy、鷹島姫乃、ミホウ☆万華鏡、keiko、マイミー、ミスターファーム、雪狐、浅草十一寸
 ●6月29(土) コースケ☆原澄人 with go luck girls、鷹島姫乃、2代目東京コミックショウ、浅草十一寸、フーセンおじさん、太平洋

△第23回とおがった大道芸 <http://www.zao-machi.com/3764> ○宮城県蔵王町・遠刈田温泉

- 6月1(土)・2(日)

加納真実、ココナツ山本、SUKE3&SYU、芸人まこと、もんたくん、ブラックエレファント、荒木巴、結城敬介、アストロノーツ、中国雑芸芸術団、EPPAI&マサトモジヤ

△東京ソラマチ大道芸フェスティバル 2019 <http://www.tokyo-solamachi.jp/> ○東京スカイツリータウン・ソラマチ

- 6月1(土)・2(日)

DemaToid、YEN TOWN FOOLS、道化師 LOTO、ふくろこうじ、サクノキ、クラウン YAMA、サンキュー手塚、山本光洋、to R mansion、idio2、三雲いおり、ボンバンゲー、小林智裕、CONRO、Juggler Laby、Performer SYO!、セイムセイム、ながめくらしつ、Street Entertainer RYU、Mr. アパッチ、SEOPPI、ZANGE、紙磨呂、セクシー DAVINCI、丸一仙翁社中、伊藤佑介、セミズストリート、Syan、KANA∞、フレディーノ、Mr. BUNBUN、Duo AB、シルヴプレ、HIBI★Chazz-K、un-pa、Shiva、SAKU&クラウン・じえ〜むす、アトリエアリス、くりちゃんのバントマイムのみんな

△浅草ストリート彫像祭 2019 <https://livingstatues.wixsite.com/lsa-web/2019> ○浅草隅田公園内エリア、ソラマチとコラボ

●6月1(土)・2(日)

青い海の海賊 カジオトーレ、Statue KaI、九里ヶ崎雪彦、ROBIT.1号、舞夢男爵、仕事人・壮之助、狼執事、「杏(あん)」、自由な女神、日本人形をぢこ、叶結、折りの人形 クロワール、POTE、演奏家の狂喜、沢村誠一、ケンハモたろう、生人形 雪狐、ピオメハニカ、ミスターファーム、E・D・D・I・E、ナイトメア エトランゼ、招福

△パフォーマンスカーニバル vol.18 <https://www.facebook.com/p.ourdelight/> ○蔵市・ジャズクラブ OurDelight

●6月1(土) カナールペキノワベストライブ展 in 埼玉蔵 2019 15:00/20:00 ￥3000 (小・中学生￥2000)

●6月20(木) ゼロコ Our Delight ライブ vol.2『あぁ』 19:30 ￥2500 (小・中学生￥2000)

●6月27(木) 音楽とパフォーマンスナイト! (タカパーチ、王子菜摘子、YEN TOWN FOOLS) 19:30 ￥3000 (大学～中学生￥1500)

●6月29(土) ぴりとタカパーチのノスタルジック音楽会 19:30 予約￥2500 (当日￥3000、小・中学生は各千円引き)

●6月30(日) SEED (マジカリスト®ピリー 紙磨呂) 14:00/18:00 予約￥3000 (当日￥3500、小・中学生￥2000)

予約・問合せ: <https://www.facebook.com/p.ourdelight/>

△石川町コメディアーダ ○横浜市石川町・石川老町内会館 (横浜市石川町1-22)

●6月16(日) 14:00 開演

講演「コメディアーダについて」(大島幹雄)、パフォーマンス(三雲いおり、ななな、ぴり)

入場無料(投げ銭大歓迎)(要・予約 comediada@yahoo.co.jp 名前・人数・連絡先を明記)

△第29回三代目若松若太夫説経節独演会 <http://sekkyou.s371.xrea.com/> ○板橋区立郷土芸能伝承館

●6月22(土) 13:00 開演

小栗判官・鬼鹿毛曲馬の段、佐倉義民伝・甚兵衛渡り場(若松若太夫)、御祝儀宝の入船(鷲東昌枝)

入場無料

問合せ: 04-2954-5990 (小峰)、03-3558-4222 (青木)

△ダメじゃん小出ソロライブ「こいでいゝのだ!!」 vol.7 ○両国門天ホール

●6月22(土) 14:00 /16:00

前売り予約￥2500 (当日￥3000)

予約・問合せ: 080-3306-4695 iinodalldjk@orion.ocn.ne.jp

△THE GREAT TAMER (ディミトリス・パシポオアヌー作品) <https://rohmtheatrekyoto.jp/>

●6月28(金) 19:00 /29(土) 15:00 /30(日) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場

S席一般前売り￥6500、U25￥3500 (当日各+￥500)

A席一般前売り￥4000、U25￥2000 (当日各+￥500)

問合せ: 電話0570-0564-939 (SAFチケットセンター)

●7月5(金) 19:00 /6(土) 15:00 ロームシアター京都サウスシアター

全席指定 一般￥6000 ユース(25歳以下) ￥4000

問合せ: 電話075-746-3201 (ロームシアター京都チケットカウンター)

△サンキュー手塚ソロライブ「元～18491」 vol.17 <http://www.39tezuka.com/> ○しもきた空間リパティ

●6月28(金) 19:30 /29(土) 13:00&17:00

予約￥2800 (当日￥3300)

△KYOTO 大道芸祭 2019 <http://www.npokpa.com/KyotoStreetProject/fes2019/> ○京都・ゼスト御池地下街

●6月30(日)

愛のマーメイド、izuma、エル、Okk、GROviART、サンキュー手塚、シンクロニシティ、CHIKI、パントマイムプロレスリング、フェイスペインター

☆ミホウ、フォトジェニックスタチュー エトランゼ、フレディーノ、ブンブク、りずむらいす、リューサー、渡辺あきら

△キラリ☆ふじみ・サーカスバザール <http://www.kirari-fujimi.com/program/view/574> ○富士見市民会館キラリ☆ふじみ

●7月6(土)・7(日)

「ロシアのサーカスがやってくる」7月6(土) 14:30 /7月7(日) 12:30 一般￥1000 (中学生以下￥500)

サーカスショー「かぼちゃサーカス団のパフォーマンス」、浅草雑芸団の大道芸、おじゃるずの大道芸

地産地消のバザール(野菜、コメなど)、ジャグリングなどのワークショップ

△浅草雑芸団木馬亭公演第34回「願人坊主、いざ推参! カボレ カポーレ!!」 ○浅草・木馬亭

●7月12(金) 18:30

前売り・予約￥2000 (当日￥2500)

申込み・問合せ: 電話&FAX 03-3388-4348 (カミジマ) ※留守電の対応になります。 e-mail zatugeidan@hotmail.co.jp

△国立劇場民俗芸能公演「祝福芸」 https://www.ntj.jac.go.jp/schedule/kokuritsu_s/2019/7143.html?lan=j ○国立劇場・小劇場

●7月27(土) 14:00

三河万歳(安城の三河万歳保存会)、阿波木偶箱まわし(阿波木偶箱まわし保存会)、一之瀬高橋の春駒(一之瀬高橋春駒保存会)

全席指定 一般￥4000、学生2800

問合せ: 電話0570-07-9900 (国立劇場チケットセンター)

インターネット購入 <http://ticket.jac.go.jp/>

若林正の

食って極楽

濃い街の濃いつけ麺

…新宿2丁目「GACHI」

新宿二丁目、言わずと知れたゲイストリートだが、最近はおもてなしも気軽に歩ける明るい飲み屋街に変わってきている。そのど真ん中に美味いつけ麺屋が出来たと聞いていたので、探してみた。街のど真ん中にありましたよ。「二丁目つけ麺・GACHI」。元はクラブなのかドアは引くと折れ曲がって開く、よくバスルームにあるような奴。

店内は天井高く奥の席が1m半ほど高い段という変わった造り。チケット自販機でメニューを見ていると「初めてですか？」と店員が声をかけてきた。聞くと観光客が多いのでイチゲンさんらしい人には説明しているとか。麺は二種類、シンプルに麺だけとフライドチキンや卵等豪華なトッピングのものがあつ、つけ汁が塩・レッド(チリソース入って辛い奴)・テリヤキ(甘辛)の三種類。レッドの豪華版、麺の量は普通(200g)を注文。¥990也。店内見ると、意外？に男女カップルが。一人客の男はその方面らしく、新しく入って来た男性客をじろじろと見るのでおたおたしてしまう。

つけ麺はサンプル写真よりトッピングの盛りがよくてビックリ!! 大ぶりの鶏唐揚げ、揚げた穂先メンマにゆで玉子。迫力がある…麺は太くてつけ汁にしっかりからむ。汁は真っ赤だが、思ったほど辛くない。でも濃ゆい〜！鶏出汁だが、ドロドロ。唐揚げ、揚げメンマと相まって胃にもたれまくる。必死に完食したが、ちょっと気持ち悪くなった…確かに不味い訳じゃないけど、楽しむためには体調を万全にしないとかなといかんと思った。帰り道、夜の二丁目の喧騒はまさにこのつけ麺と同じくらいドロドロに濃いなと思った。
○近々リベンジを執行してみたい度〜4ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 331

願人坊主ってなんだ？

上島敏昭

今年もおおずき市木馬亭公演の季節となった。今年も「日本の大道芸探訪プロジェクト」と、だいそれた旗を掲げ、その第13弾、「願人坊主、いざ推参! カポレ カポーレ!!」とタイトルを付けた。サブタイトルは「インチキ坊主の歌と踊りと道化芸」である。

願人坊主といっても馴染みは薄い。チラシには「願人坊主とはいわば江戸時代の街頭コメディアンである」と書いたが、これだけではわかりにくいと思うので、今回はそれについて書いてみたい。

◆小沢昭一さんがあこがれた職業

小沢昭一さんに、「『願人坊主』はわがあこがれの職業」という文章がある。(『昭和の肖像<芸>』筑摩書房所収)

〈日本の芸能は宗教と、とりわけお寺さんとの関係が深いのであります。〉と書きはじめ、

〈芸人坊主。わがあこがれの職業とでもいいですか、非常に慕わしい存在です。寺や芸能の周辺をうろつき、僧籍があるような、ないような、それでいて身すぎ世すぎのカッポレ、阿呆陀羅経、チョボクレなどの芸でそこそこお金をしてしまう。なんともフシギな連中ではありませんか。〉

この芸人坊主、芸能史の上ではまだよく研究されてはいないのですが、「願人」とか「願人坊主」と呼ばれている存在であります。〉と書いている。小沢さんは願人坊主のどこに「あこがれた」のか。

〈もともと願人坊主は、一種の修行者で…中略…、どうもそれは名目で、いろいろフシギな金もうけを考えては、江戸の町をスタスタ徘徊していた芸人坊主なのであります。〉というあたりかと思う。宗教者のようだが、正体は不明。町をスタスタ歩いているうちに日銭を稼ぐ。

小沢さんが慕わしく思ったのは、そんなしたたかな世渡りだったのだろう。

そして〈四谷・鮫が橋、下谷・万年町、芝・新網、神田・橋本町などが願人や大道芸人の街〉とも書いている。

◆願人坊主のパフォーマンス

では彼らは、実際どんな稼ぎをしていたのか。清水晴風は『神田の伝説』という本で、「願人坊主」という項をもうけて説明している。〈江戸時代の神田橋本町は願人坊主の巣窟であった。〉と書き、願人坊主には〈いろいろ種類はあるが、法師体にいでたちて神仏に縁を求め喜捨を仰ぐはいずれも同じ〉といい、十種類ほどのパフォーマンスを俎上に載せて解説している。同じ著者の『世渡風俗図会』の図も合わせてここに紹介してみる。

・すたすた坊主…はだかで鉢巻をし、腰にしめ縄を巻きつけ、手に錫杖と扇をもって「誓文祓い(せいもんばらい) 誓文払い」といって踊りまわった。のちに「すたすた坊主が来れば世間が景気よくなる」といって歓迎された。



・おまかしょ…細い紙を切って、撒きちらしながら歩くだけだが、子どもが後から追い掛けて紙切れを拾って喜ぶ。
・「お稲荷さんのご利生、すてきなご利生」…このように唱えて戸ごとをまわる。

・住吉踊り…いまのかっぱれ。



・半田行人…「葛西金町半田の稲荷、疱瘡もかるい麻疹(はしか)もかるい」といって、赤い木綿の鉢巻に赤い着物、赤い襟という赤ものづくめで、手に小さな幟と鈴を持ってくる。(※下図では赤くない)



・寒垢離…白衣を着て腹に荒縄を幾筋も巻きつけ、大きなタライに冷水を盛ってその中に座り、鈴を振り線香を持ち「コンピラコンピラ、コンテインワカ」と唱える。
・お釈迦の誕生…4月ごろ墨色の羽織のごときものを着て手に花見堂を提げ「お釈迦のご誕生〜」と大声をあげて賽銭をいただく。

・「法界法界の大施餓鬼」…7 月の盆になるとこのように唱えて銭をもらう。
・「和尚今日(きょう)は妻恋稲荷大明神」…このように唱えて、一文人形を敷居に並べる。
・丹波の荒熊…裸を墨くろぐろに塗り、「丹波の国の荒熊ひとつ鳴かせてお目にかけます」と、細い竹をもって大地を叩く。



ほかに名前だけだが、千日参り、千手観音、高野道心、阿呆陀羅経、ちょぼくれ、説教祭文かたり、ちょんがれ、なぞ坊主、考えもの、配りものをあげ、〈数ふれば限りがない。〉とし、〈斯く橋本町から出る乞食に限り他のものと異なつてすべて僧体を装ひ神仏へ信仰する所作を以て世渡りをなし一種の異彩を放ったものである。〉とまとめている。

そうはいっても、丹波の荒熊は「僧体」とは思えない。阿呆陀羅経、ちょんがれ、ちょぼくれは語りの芸であるが、その内容も、芸人の姿かたちも、宗教とは無縁だろう。結局、願人坊主の親方の下で稼いでいれば、その芸態はかなり自由で、なにをやってもゆるされたのではなかろうか。

◆ただいまのお笑い草に

「日本随筆大成」というシリーズに収録されている「只今御笑草」という随筆がある。江戸市中の大道芸を挿絵付きで記録したもので、著者は二世瀬川如臯(1757－1833)。著者の実見したものだけではなく、伝聞したものも含め、35 種の大道芸を記録している。書名は、これらの大道芸人が演芸の切れ目に、客のあいだをまわって投げ銭をもらうときの決まり文句「ただいまのお笑い草に…」からとったものだという。

煩雑ではあるが、それらを列記すれば次の通りである。

①とぞ申しける ②こんこん坊 ③二人乞食 ④大坊 ⑤ありゃりと ⑥立石熊之丞 ⑦伊勢大神宮 ⑧おちよ舟

⑨長太郎坊主 ⑩摺子木閻魔 ⑪黒座頭 ⑫与吾連太夫 ⑬はりがね売 ⑭そそそ ⑮山猫まわし(傀儡師) ⑯長松小僧 ⑰すたすた坊主 ⑱仙人 ⑲赤坂亀・源坊 ⑳方斉念仏(葛西念仏とも) ㉑松川鶴市 ㉒歌比丘尼 ㉓御祓納 ㉔高野行人 ㉕お七が菩提 ㉖大八 ㉗芥子之助 ㉘角力とろん ㉙泥鰌 ㉚可愛がって ㉛仙台おばあ ㉜よいやなア ㉝金作小僧 ㉞二十三夜 ㉟小僧と盲目

このうち前記、『神田の伝説』に記されたものと重なるのは⑰すたすた坊主⑳高野行人(道心)だけだが、なんとなく宗教的なものも結構ある。列举すれば、②こんこん坊(稲荷か)⑦伊勢大神宮⑩摺子木閻魔(閻魔大王)⑭そそそ(弁天堂建立の勧進)⑱仙人(体に墨を塗って仙人に扮する)⑲赤坂亀・源坊(念仏読み)⑲歌比丘尼⑲御祓納(古札収集)㉕お七が菩提(八百屋お七の供養)⑳可愛がって(唄とまじない)以上の十種は願人坊主の可能性が高い。ほかにも世間の哀れを誘って銭を乞うものもあり、これも願人坊主の可能性がある。こうなると、単なる物乞いと区別はつきにくい。前掲の『神田の伝説』でもはっきり「乞食」と書いている。

◆願人坊主の自伝

若いころに願人坊主だったという人の自伝がある。「金谷上人一代記」で、藤森成吉による現代語訳版が平凡社東洋文庫に入っており、『日本人の自伝』第 23 巻(平凡社)、『日本庶民生活史料集成』第 16 巻(三一書房)には国会図書館本が翻刻されていて、かなり有名な本である。金谷上人は、苗字は横井、名を妙懂といい、号を金谷または融道人と称した。「近江蕪村」などとも呼ばれて画僧として知られるという。天保 3 年(1832)、近江・坂本において 72 歳で没している。

自伝は絵伝仕立てで、近江国栗太郡下笠(現滋賀県草津市)での誕生から、幼少期の腕白時代、九歳で大坂、天満北野村の宗金寺に修行に出されて脱線小坊主となり、放浪、



江戸遊学、また放浪、追放などの末、京都で説教僧となって金谷山極楽寺の住持となるものの、京都大火で罹災したのを機に、退職。ふたたび放浪。名古屋で画僧なるが、俄か山伏となって大峰入りに供奉し、50 歳で富士登山…という波乱万丈の半生が、面白おかしく描かれている。

金谷が願人坊主だったのは、江戸遊学中、(芝増上寺袋谷文的寮)放蕩がばれて追放され、上総、下総などを放浪した末、江戸にもどったときで、金谷 17 歳、安永 6 年(1777)ごろのことと思われる。

江戸ではもとの増上寺の寮に入るつもりだったが、断られ、ぶらぶらと目黒不動へ参詣に向かう途中、四谷新宿の天龍寺門前で、正悦坊という願人坊主の頭の家をみつけ、その場で弟子入りする。

〈当分、かせぎ込みという事をなして暮し玉ふといへ共、元来新参の事ゆゑ先輩の教授を蒙り、夏箱(げばこ)といへるものを肩にかけて「逸塵世」といふ事を門にいひ歩行(あるく)。又は「和尚で御座イ和尚で御座イ」といふて御江戸八百八丁の隅々くまぐま残る處もなく走り歩行(あるく)。此の願人坊と申す者、表には東叡山御支配鞍馬寺大蔵院末と記して、京北鞍馬の本寺より元、保元平治の乱の後、源の牛若丸鞍馬に入て児(ちご)となり居られし頃、平家調伏の祈願を籠られし時の発願人といふ事にて、種々様々の姿に变じ、凡そ一日の内七変其の家に行く共くろしからずといふ〉

結局、こども面白くなくて上方へずらかり、願人の生活は終わる。

短い記述だが、頭の家が宿舎になっていたこと、簡単に仲間に入れたこと、夏箱を渡され、これを肩にかけて、江戸中あるいて家々を訪問し、銭をもらったこと。それを「かせぎ込み」といこと、「逸塵世」とか「和尚で御座イ」という口上があったこと、一日に 7 回まで同じ家を訪問しても構わないといわれていたこと、牛若丸にまつわる故事来歴伝わっていたこと…などがわかる。

この気楽さは、まさに小沢昭一さん好みだろう。

このあと、三島宿で高野聖のマネをした願人坊主に出会う。これが経帷子を買っているのをみて、その商売をバクリ、修善寺あたりまで売り歩いて儲けたが、地元の不良坊主ともめてお上の厄介になる。すると江戸の正悦坊に連絡がゆき、配下の隆円坊が弟子二人を連れて迎えに来る。気楽にみえても、ネットワークは意外にきちんとしていたのである。